佐土原町文化財調査報告書第21集

佐土原町内遺跡（さどわらちょうないいせき）Ⅳ

開発事業に伴う事前試掘・確認調査報告書

2001. 3

宮崎県宮崎郡佐土原町教育委員会

序

佐土原町は、東九州自動車道の宮崎～西都間の部分開通や国道219号春田バイパスなどの開通に伴い佐土原町及びその周辺の交通状況は大きく変化しようとしています。また、近年の情報通信手段の発達に呼応して携帯電話無線基地局などの建設も急速に行われております。

そうした状況の中、佐土原町教育委員会では、諸開発と文化財の保護との調整に留意するために平成元年度から2年度にかけて調査・作成した、「佐土原町遺跡詳細分布調査報告書」に基づいて事業実施前に試掘・確認調査を行い、その結果をふまえて発掘調査を行いながら遺跡毎に必要な措置を講じ文化財の保存に努めてまいりました。

平成9年度から11年度にかけて「町内遺跡Ⅰ～Ⅲ」を発刊してまいりましたが、ここに、平成11・12年度に実施しました町内の試堀・確認調査の結果を「町内遺跡Ⅳ」として報告いたします。

この報告書が、学術資料として、また文化財への理解・認識を深める一助となり、広く研究・教育の現場などでご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にあたり関係各位より頂きました、ご指導・ご協力に対しまして心よりお礼申し上げます。

平成13年3月

佐土原町教育委員会

教育長　菊　池　俊　彦

例　　言

1. 本書は、各種開発事業に伴い佐土原町教育委員会が文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受け実施した町内遺跡の試掘・確認調査の報告書である。

2. 試掘・確認調査は、各種開発事業主の依頼を受け佐土原町教育委員会が主体となり、平成11・12年度に社会教育課文化財係が担当した。

3. 3つの遺跡の試掘・確認調査は、平成11年4月1日から平成13年3月31日までの期間に実施したものである。

4. 本書に使用した写真は、木村が担当し、空中写真は株式会社地域開発研究所の撮影による。

5. 本書で使用した位置図などは、国土地理院発行の縮尺2万5千分の1図を基に作成した。

6. 出土遺物は、佐土原町教育委員会（佐土原町出土文化財管理センター）で保管している。

7. 色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版　標準土色帖」による。

8. 方位は磁北、レベルは海抜高である。

9. 本書の編集・執筆は、木村が担当した。

本文目次

第1章　はじめに
　第1節　調査に至る経緯 …… 2
　第2節　調査の組織 …… 2

第2章　佐土原町の環境と調査地の概要
　第1節　佐土原町の環境
　　1. 自然環境 …… 2
　　2. 歴史的環境 …… 3
　第2節　調査の目的 …… 3
　第3節　各遺跡の位置と環境の概要
　　1. 巨田2期地区遺跡（仮称） …… 3
　　2. 茶屋遺跡 …… 3
　　3. 小牧遺跡 …… 3

第3章　試掘・確認調査
　第1節　巨田2期地区遺跡（仮称） …… 4
　第2節　茶屋遺跡 …… 11
　第3節　小牧遺跡 …… 19

第4章　おわりに …… 32

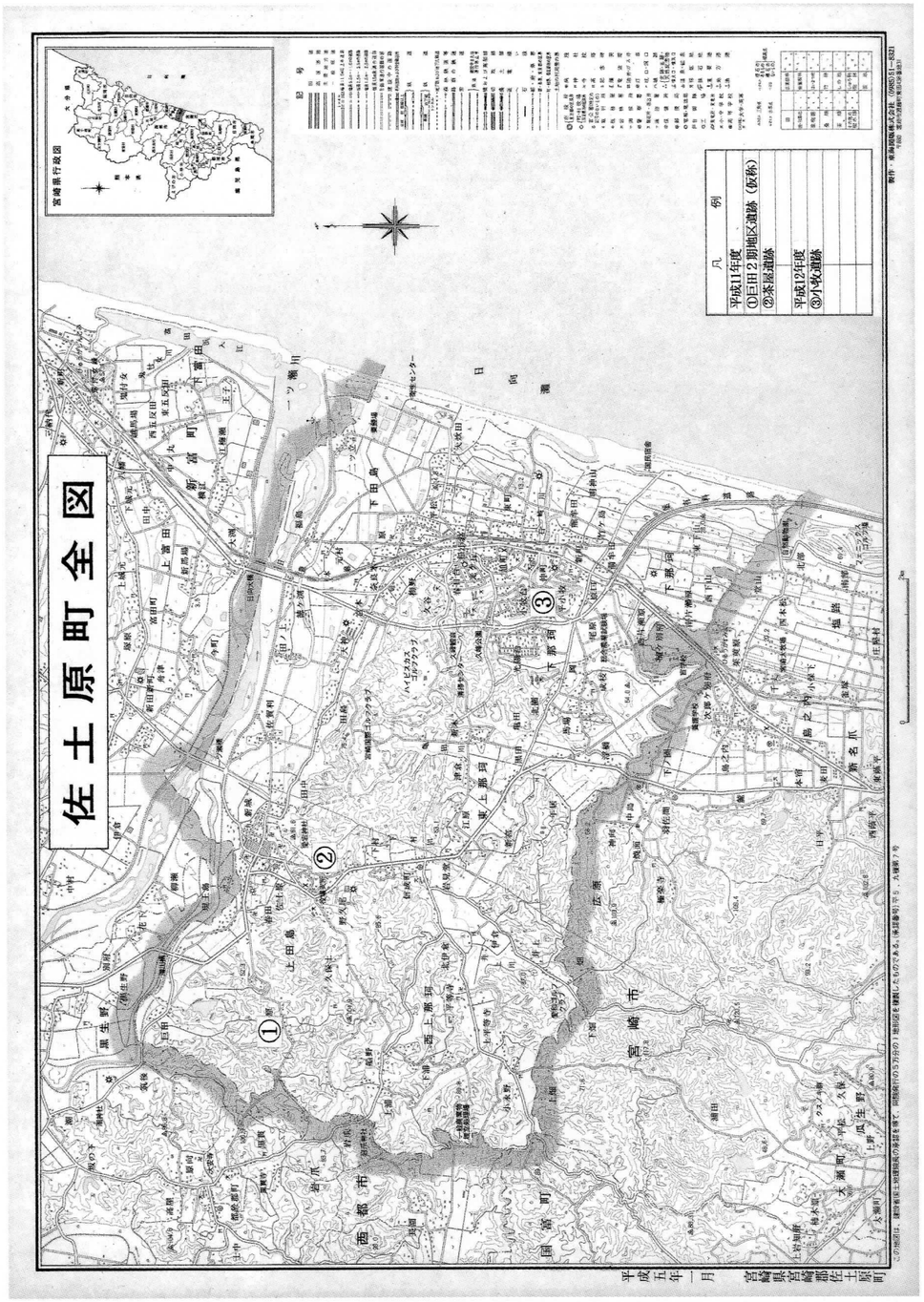
挿図目次

第1図　平成11・12年度町内遺跡試掘・確認調査地 …… 1
第2図　巨田2期地区遺跡（仮称）調査区図 …… 4
第3図　茶屋遺跡調査区図 …… 11
第4図　小牧遺跡調査区図 …… 19

図版目次

図版 1　巨田2期地区遺跡（仮称）調査地 …… 5
図版 2　巨田2期地区遺跡1地区　調査地平面図 …… 6
図版 3　巨田2期地区遺跡2地区　調査地平面図 …… 7
図版 4　巨田2期地区遺跡3地区　調査地平面図 …… 8
図版 5　巨田2期地区遺跡4地区　調査地平面図 …… 9

図版 6　巨田2期地区遺跡(仮称)　土層断面模式図……10
図版 7　茶屋遺跡　調査地……12
図版 8　茶屋遺跡　調査地平面図……13
図版 9　茶屋遺跡　土層断面図……14
図版10　茶屋遺跡　土層断面図……15
図版11　茶屋遺跡　土層断面図……16
図版12　茶屋遺跡　遺物……17
図版13　茶屋遺跡　遺物実測図……18
図版14　小牧遺跡　調査地……20
図版15　小牧遺跡　調査地平面図……21
図版16　小牧遺跡　土層検出状況……22
図版17　小牧遺跡　土層検出状況……23
図版18　小牧遺跡　土層断面図……24
図版19　小牧遺跡　土層断面図……25
図版20　小牧遺跡　土層断面図……26
図版21　小牧遺跡　土層断面図……27
図版22　小牧遺跡　遺物……28
図版23　小牧遺跡　遺物……29
図版24　小牧遺跡　遺物実測図……30
図版25　小牧遺跡　遺物実測図……31



第1図　平成11・12年度町内遺跡試掘・確認調査地

第1章　はじめに

第1節　調査に至る経緯

今回の報告書（佐土原町内遺跡Ⅳ）は、平成11年度実施の巨田2期地区遺跡（仮称）、茶屋遺跡と平成12年度実施の小牧遺跡の試掘・確認調査報告書である。

それぞれの調査について、事前に事業説明が行われ開発予定地の確認調査を行い、調査結果を関係者に報告した。

以下その内容である。

第2節　調査の組織

平成11年度

調査主体	佐土原町教育委員会	教育長	菊池　俊彦
		社会教育課長	郡司　利文
		同課長補佐	河越　弘明（7月から）
	庶務担当	文化財係長	東　浩一郎
	〃	主査	黒木　直英
	〃	主事	櫛間　史朗
	調査担当	主査	木村　明史
	佐土原城跡歴史資料館	館長	赤木　達也
	出土遺物整理員	増田道子・田中智子・一色尚子	
		黒木久惠（12月まで）・山口千恵美（2月から）	

平成12年度

調査主体	佐土原町教育委員会	教育長	菊池　俊彦
		社会教育課長	郡司　利文
		同課長補佐	河越　弘明
	庶務担当	文化財係長	東　浩一郎
	〃	主査	黒木　直英
	〃	主事	櫛間　史朗
	調査担当	主査	木村　明史
	佐土原城跡歴史資料館	館長	赤木　達也
	出土遺物整理員	増田道子（8月まで）・田中智子・一色尚子	
		山口千恵美・黒木登季子（10月から）	

第2章　佐土原町の環境と調査地の概要

第1節　佐土原町の環境

1．自然環境

佐土原町は、北に一ツ瀬川、東に日向灘、南に宮崎市、西に西都市と国富町が接し面積56.84㎢を有する。町内の地形としては、北西部に都於郡・仲間原台地があり、その南

に一段低い船野台地が位置し、その南東に年居台地が東西方向に長く延びている。また、仲間原台地の北側には鹿野田・上田島丘陵が存在する。一ツ瀬川沿いには、川に沿って東西に低地が形成され、町の海岸には砂丘がみられる。

2．歴史的環境

佐土原町は、旧石器時代より人々の営みがあり、弥生時代には伊賀給遺跡において稲作が行われていたことが確認された。古墳時代では土器田東1号横穴墓において極めて珍しい線刻画が見つかった。この線刻画は非常に残念なことに国道10号線バイパスの開通により消失してしまった（レプリカを西都原資料館に展示）。その他にも佐土原町古墳、那珂村古墳、広瀬村古墳など多数存在しており、約150基近くが県指定となっている。

平安時代から中世期には、巨田八幡の創建、伊東氏の日向支配など佐土原が日向地方の中心として栄え始める。

その後、天正から慶長にかけて島津家久（宗家第15代貴久の子）とその子豊久が佐土原城主として佐土原を治めるが、関ヶ原の戦で豊久が戦死したため佐土原は一時天領となる。慶長8年（1603）に島津以久（宗家第15代貴久の弟、忠将の子）が佐土原3万石の初代藩主として封ぜられてから、第10代忠寛までの約270年間、佐土原藩として再び島津家に治められることとなった。

中世から江戸期の間、佐土原には多くの寺院が建立されたが、廃仏毀釈により廃寺になったものもある。その中で、大光寺・高月院などは現在に至るまで残っている。

近代には、日向の中心は現在の県都宮崎市へと移っていくが、西南の役に出兵し戦死した島津啓次郎や、西郷札の製作所など歴史に残る出来事は多い。

現代に入ると、工場の操業開始や工業団地へのハイテク産業の誘致など、産業活動が活発に行われるようになってきた。

第2節　調査の目的

県営や町、民間の各種整備事業に伴い、開発事業と文化財保護との調和を図り、事業を円滑に推進するために遺跡の試掘・確認調査を行う。

第3節　各遺跡の位置と環境の概要

1．巨田2期地区遺跡（仮称）

巨田2期地区遺跡（仮称）は、海岸より西に約9kmの仲間原台地と上田島丘陵の境に位置している。現況は山林で調査対象面積は、4,700㎡である。

2．茶屋遺跡

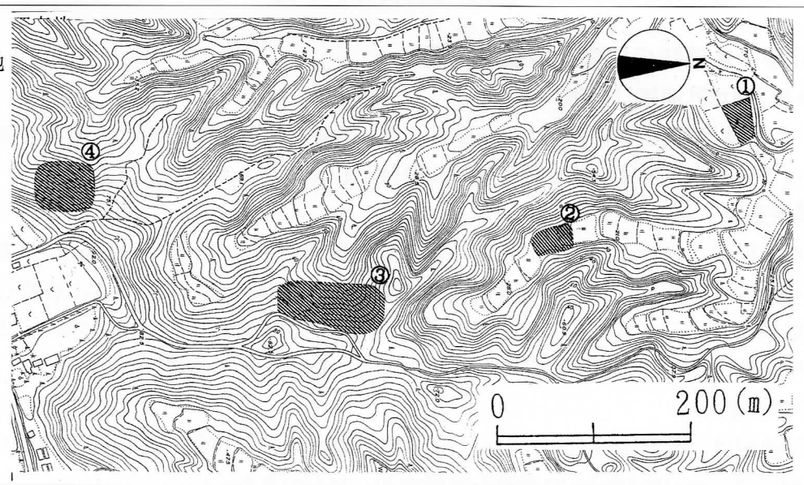
茶屋遺跡は、海岸より西に約7kmの佐土原丘陵北西部先端、標高約50mに位置している。地質は、入戸火砕流堆積物を基盤にAh（アカホヤ火山灰）とKb（小林軽石）が上下に堆積している。東側の丘陵谷部は小丸川層及び通山層（泥・砂及び礫）、また南側丘陵縁辺部は佐土原層（泥岩優勢互層）によって形成されている。

3．小牧遺跡

小牧遺跡は、海岸より西に約2kmの佐土原丘陵南端部に位置している。調査対象面積は2,400㎡で、その内1,600㎡で遺構を確認することができた。

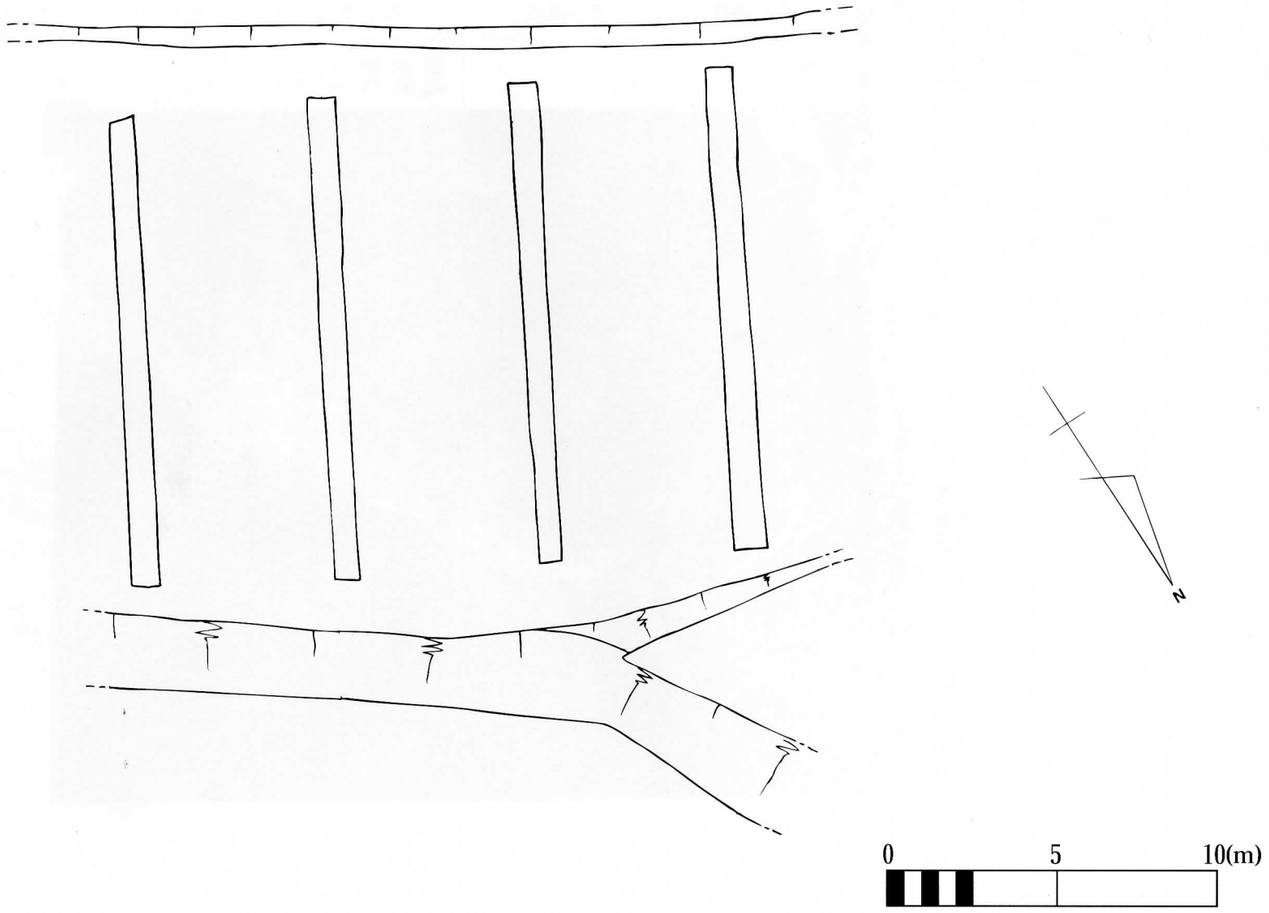
第3章　試掘・確認調査

第1節　巨田2期地区遺跡（仮称）

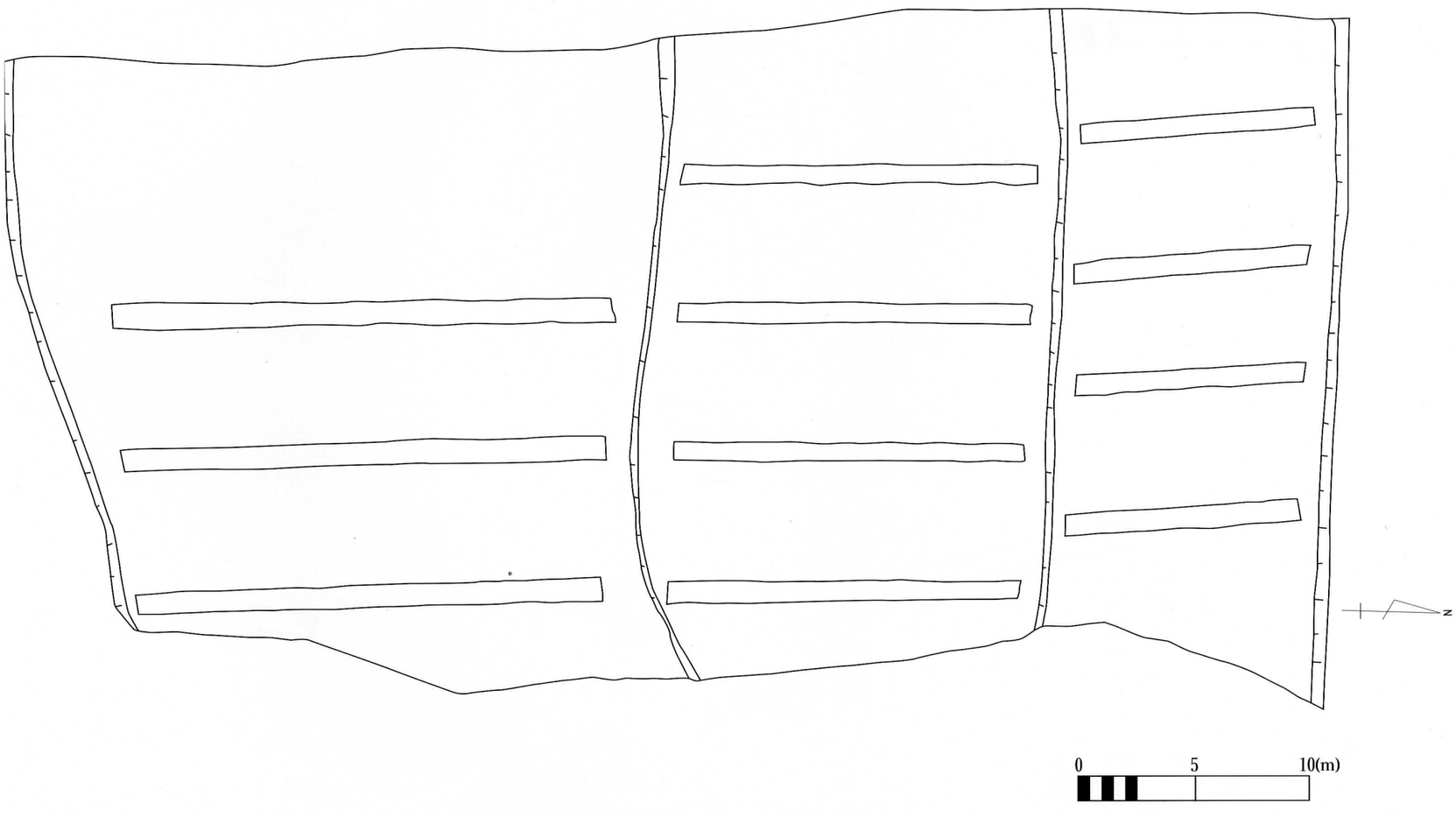
市町村名	佐土原町	調査主体	佐土原町教育委員会	調査担当者	木村　明史
遺跡名	巨田2期地区遺跡（仮称）		所在地	佐土原町大字上田島	
調査原因	巨田2期地区農免農道整備事業		調査面積	約4,700㎡（トレンチ面積：269㎡）	
調査期間	平成11年12月15日～ 平成12年1月28日		調査後の処置	消滅	
遺跡の種別	なし		遺跡の主な時代	なし	
検出遺構	なし				
出土遺物	なし				
特記事項	調査地の①区・②区は丘陵間に挟まれた谷に③区と④区は丘陵尾根側面に所在する。調査地の地形・地質は、①地区は低地上の宮崎層群妻層の泥岩、②地区は低地上の宮崎層群佐土原層の泥岩優勢互層、③④地区は丘陵上の宮崎層群佐土原層の砂岩及び砂岩優勢互層によって成形されている。従って総体的に人が生活を営むには条件が整っていない環境にある。そのために遺構・遺物は確認できなかった。				
調査地					

第2図　巨田2期地区遺跡(仮称)調査区図

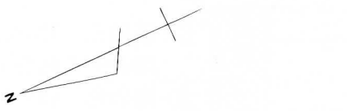
図版1　巨田2期地区遺跡（仮称）調査地



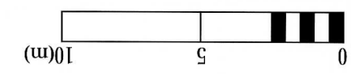
図版2　巨田2期地区遺跡（仮称）1地区調査地平面図



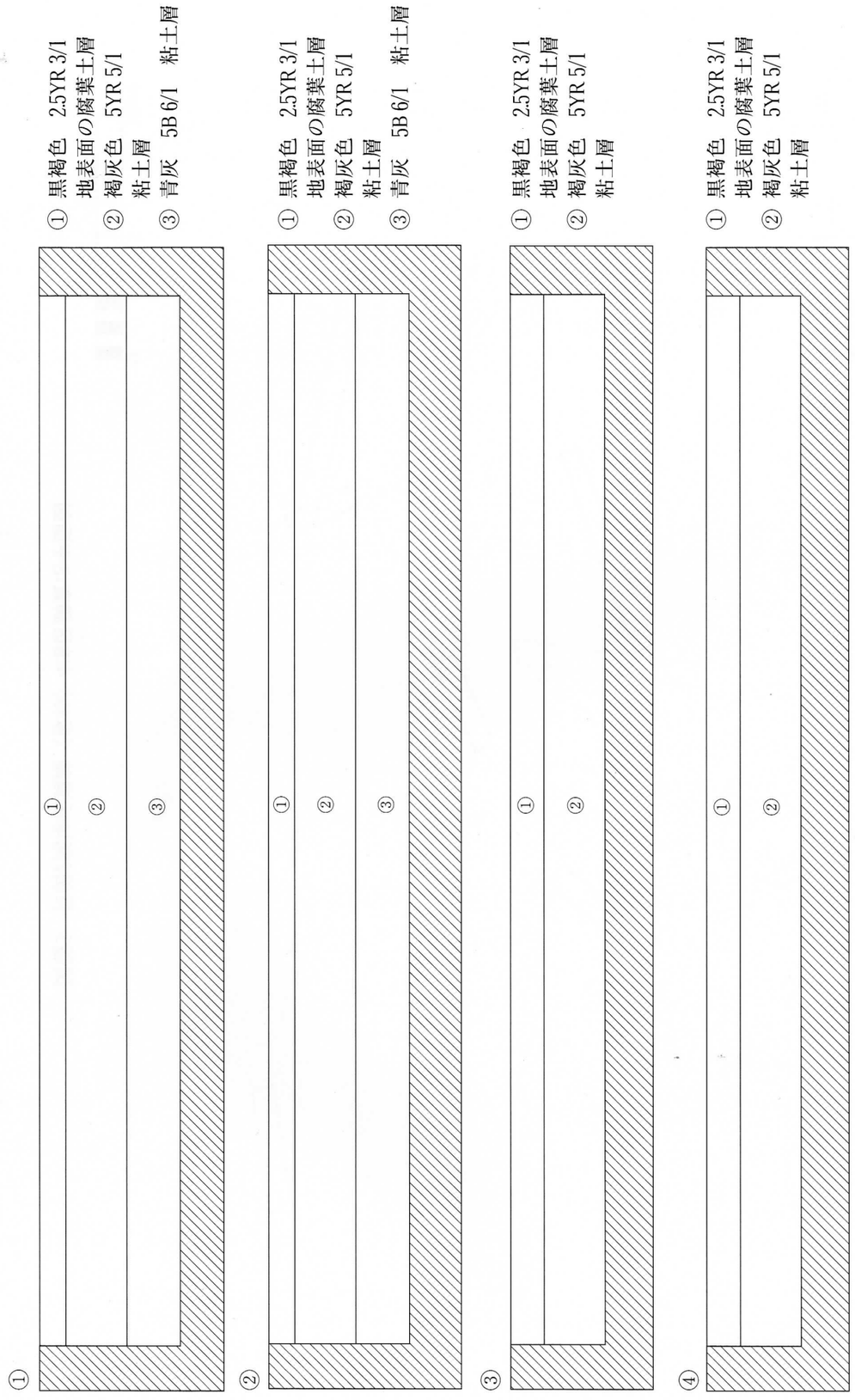
図版3　巨田2期地区遺跡（仮称）2地区調査地平面図



図版5　E田2期地区遺跡（仮称）4地区調査地平面図



図版4　E田2期地区遺跡（仮称）3地区調査地平面図

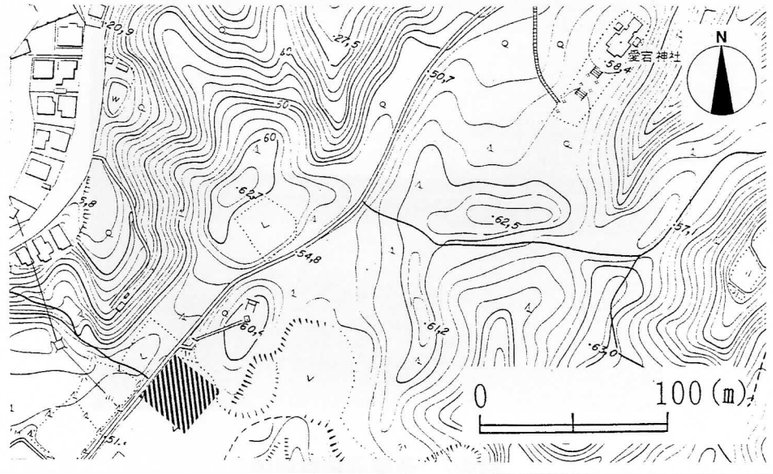


図版6　巨田2期地区遺跡（仮称）土層断面模式図　①図版2　②図版3　③図版4　④図版5

第2節　茶屋遺跡

市町村名	佐土原町	調査主体	佐土原町教育委員会	調査担当者	木村　明史
遺跡名	茶屋遺跡		所在地	佐土原町大字上田島	
調査原因	無線基地局建設		調査面積	225㎡（トレンチ面積：45㎡）	
調査期間	平成12年2月2日～ 平成12年2月29日		調査後の処置	埋土	
遺跡の種別	散布地		遺跡の主な時代	弥生	
検出遺構	柱穴				
出土遺物	土器・石器				
特記事項	遺構面は、調査地内の南部から西部にかけて広がり、包含層が20cmと厚く遺物は弥生期の土器が約20点と石器2点が確認できた。トレンチ①の南西側は、旧水道施設により攪乱を受けており遺構の確認はできなかった。トレンチ②の西側からは柱穴状遺構が3ヶ所で検出された。 全体的に当遺跡は、弥生期相当の遺物がAh（アカホヤ火山灰）から出土するので弥生期及びそれ以後の生活跡が存在していると推測される。				

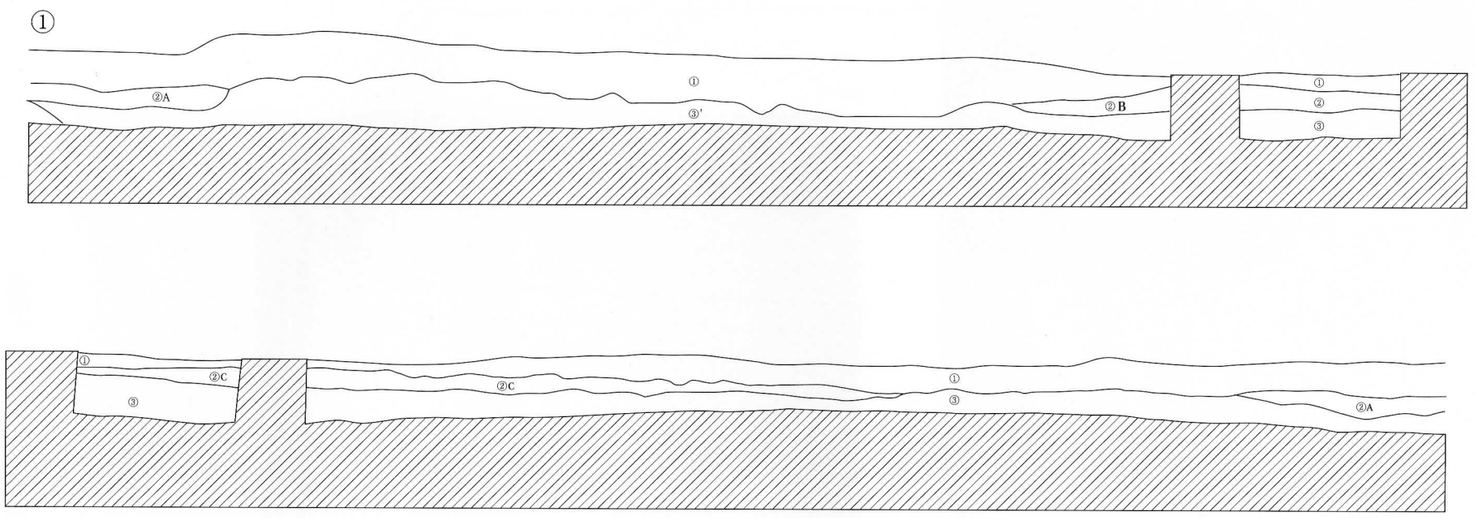
調査地



第3図　茶屋遺跡調査区図

図版7　茶屋遺跡調査地

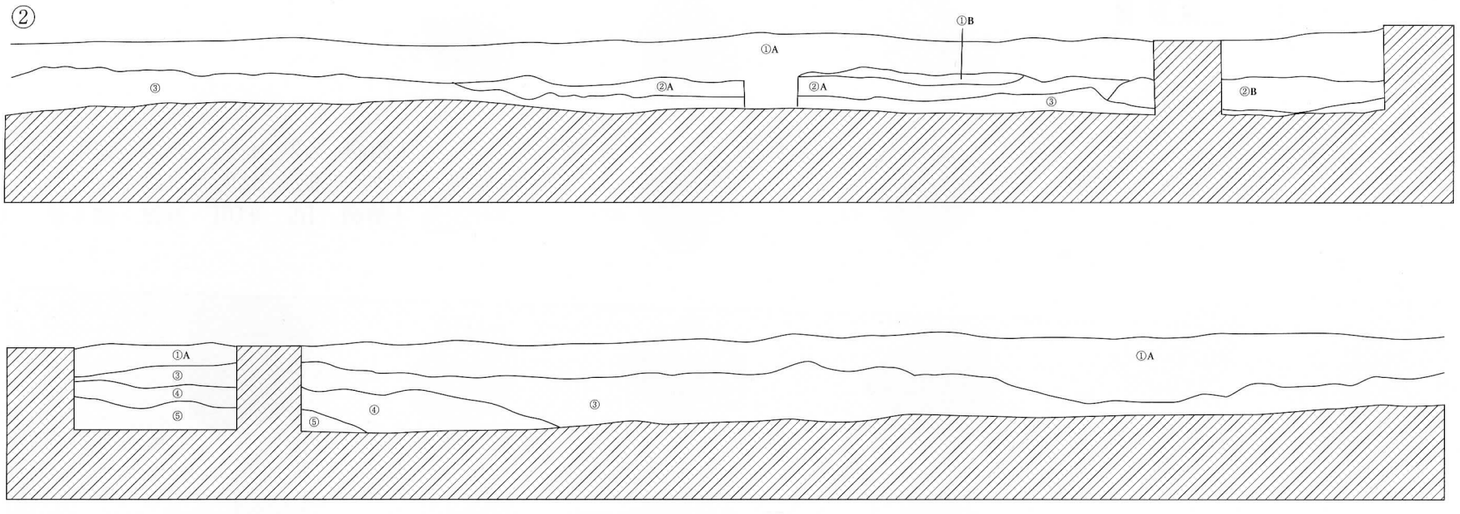
図版8　茶屋遺跡調査地平面図



①	表土層：灰褐	7.5YR	4/2	砂壌土
②A	客土層：褐灰	7.5YR	5/1	砂壌土
②B	攪乱層：にぶい黄橙	10YR	7/3	砂壌土
②C	客土層：灰白	10YR	8/1	砂壌土
③	包含層：浅黄橙	10YR	8/4	シルト
③'	攪乱層：にぶい黄橙	10YR	6/4	砂壌土

0　0.5　1(m)

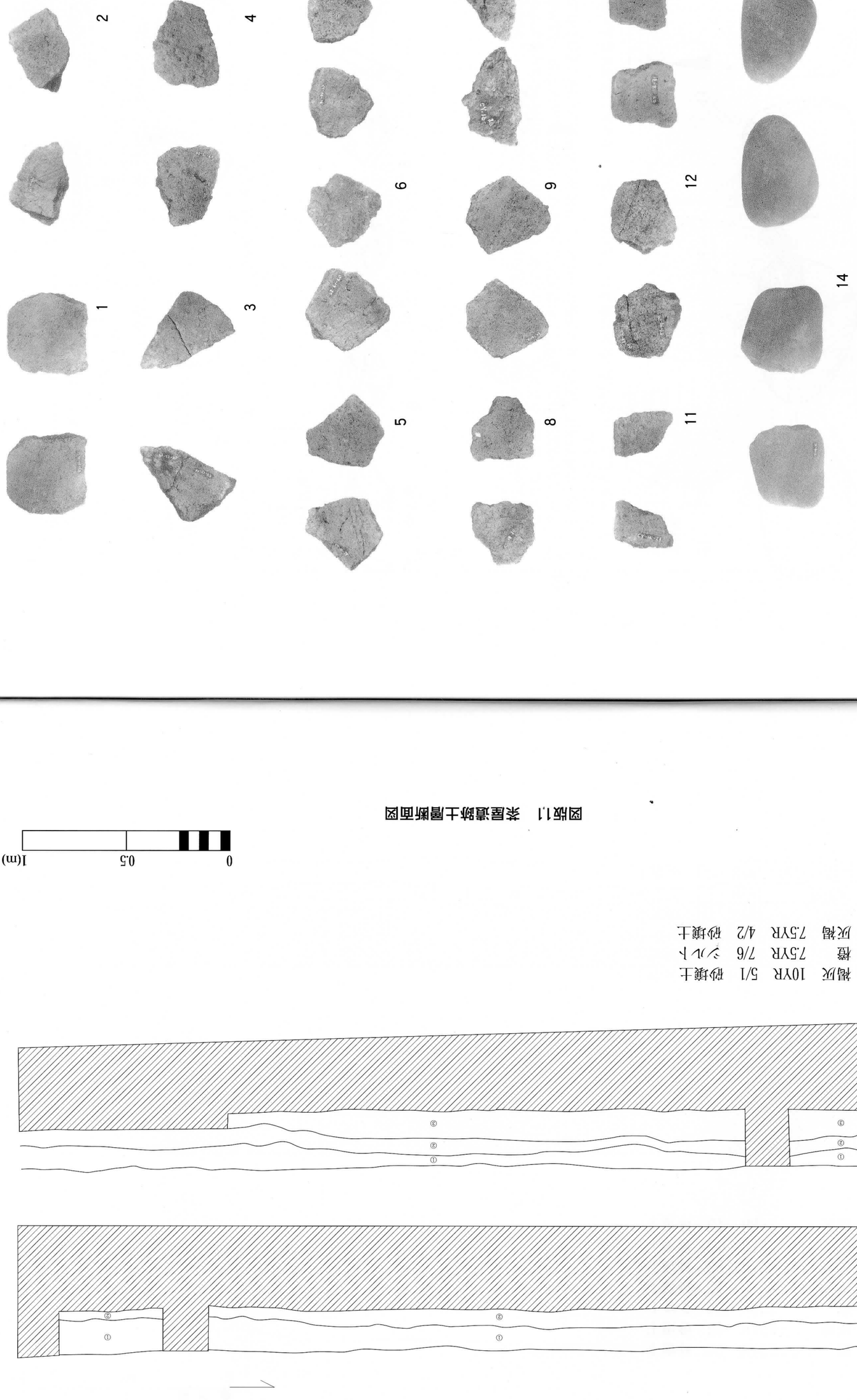
図版9　茶屋遺跡土層断面図



①A	表土層：灰褐	7.5YR	4/2	砂壌土
①B	客土層：にぶい褐	7.5YR	6/3	砂壌土
②A	包含層：黒褐	5YR	1/3	砂壌土
②B	包含層：灰褐	7.5YR	5/2	砂壌土
③	包含層：橙	7.5YR	7/6	シルト
④	文化層：灰褐	7.5YR	4/2	砂壌土
⑤	間　層：橙	7.5YR	7/6	砂壌土

0　0.5　1(m)

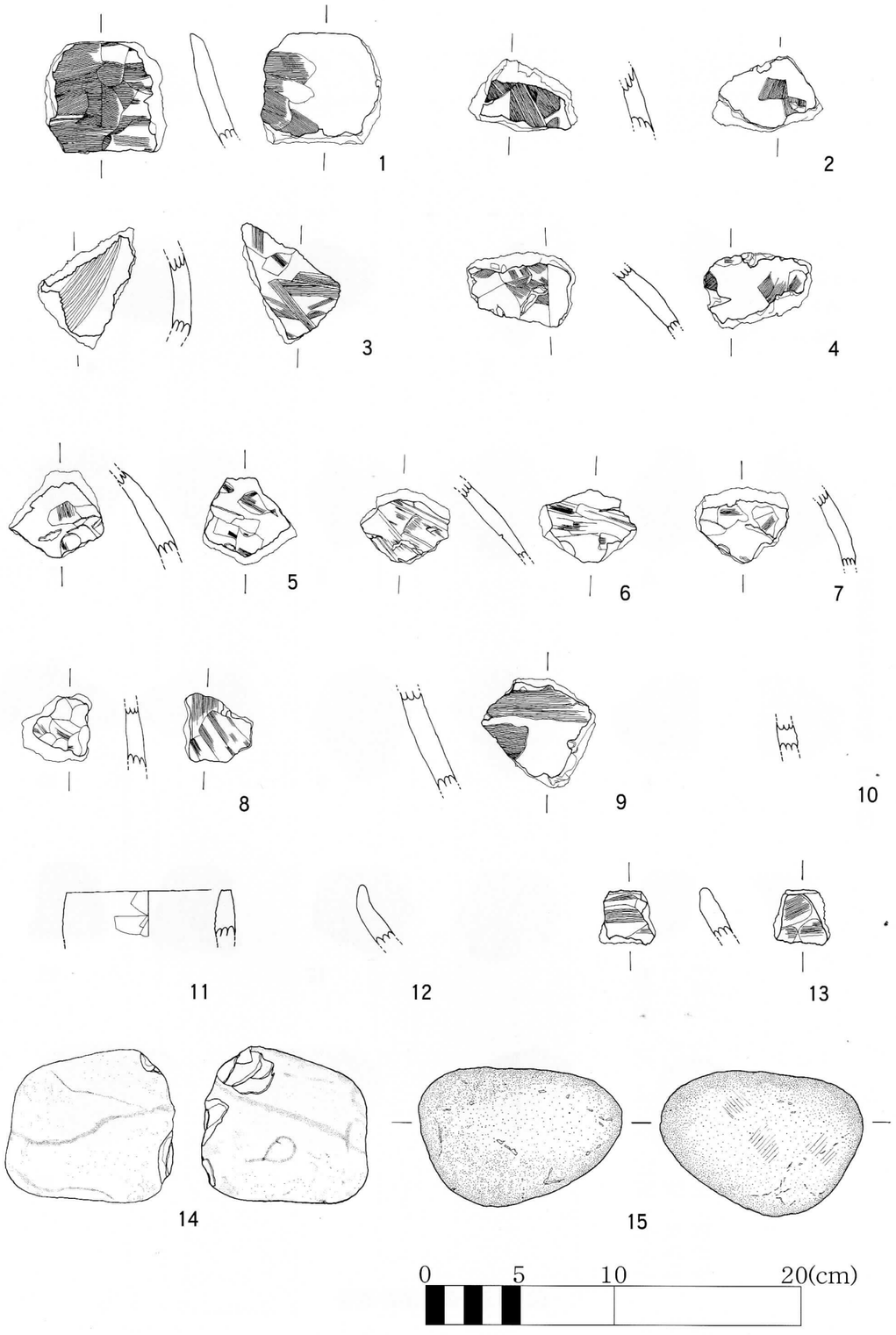
図版10　茶屋遺跡土層断面図



図版12　茶屋遺跡遺物

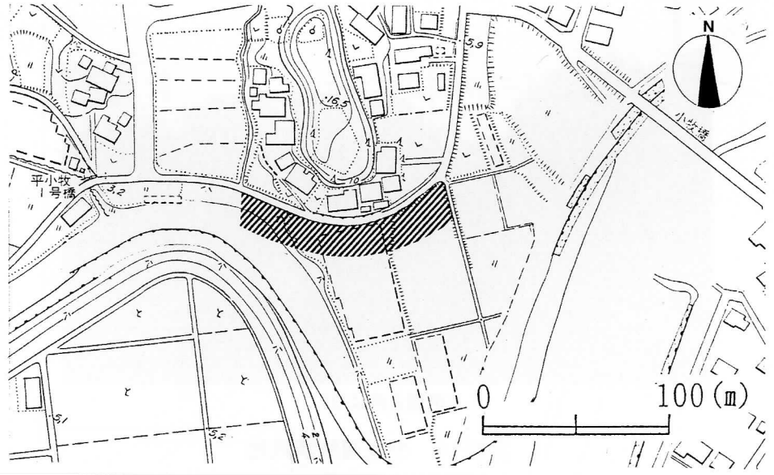
① 表土層：褐灰　10YR　5/1　砂壌土
② 包含層：橙　7.5YR　7/6　シルト
③ 文化層：灰褐　7.5YR　4/2　砂壌土

図版11　茶屋遺跡土層断面図

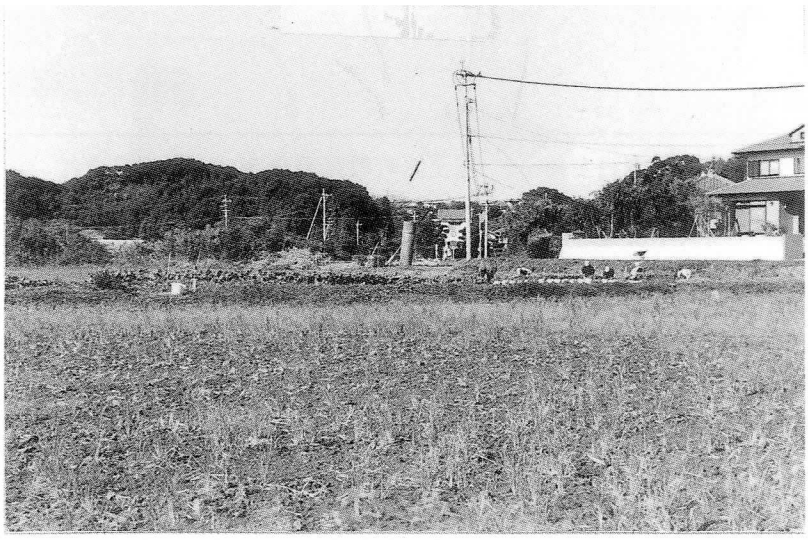


図版13　茶屋遺跡遺物実測図

第3節　小牧遺跡

市町村名	佐土原町	調査主体	佐土原町教育委員会	調査担当者
遺跡名	小牧遺跡		所在地	佐土原町大字下那珂
調査原因	町道上町～平小牧線整備		調査面積	2,400㎡（トレンチ面積：85㎡）
調査期間	平成12年11月16日～ 平成12年12月8日		調査後の処置	埋土
遺跡の種別	水田・集落		遺跡の主な時代	中世～近世
検出遺構	柱穴 V字状溝			
出土遺物	土師器 陶磁器 石器			
特記事項	表土から約20cm下の遺構包含層より遺構が検出された。遺構は、柱穴・V字状溝が検出された。また、トレンチの土層中から稲作を行う水田遺構を裏付ける多量のプラントオパールが検出された。遺物は、中世から近世にかけての陶器類がV字状溝から3点出土した。遺構範囲は、高位にある西側に主に集落、低位となる東側は水田に使用されていたと推測される。 当調査地は、南側対岸の館跡に関連した食料生産（稲作）とそれに従事する人々の生活跡として想定される。			
調査地				

第4図　小牧遺跡調査区図



（東側方向より）

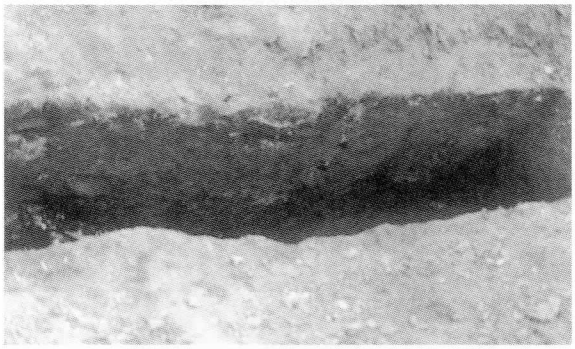
（西側方向より）

（西側方向より）

図版14　小牧遺跡調査地

図版15　小牧遺跡調査地平面図

トレンチ①

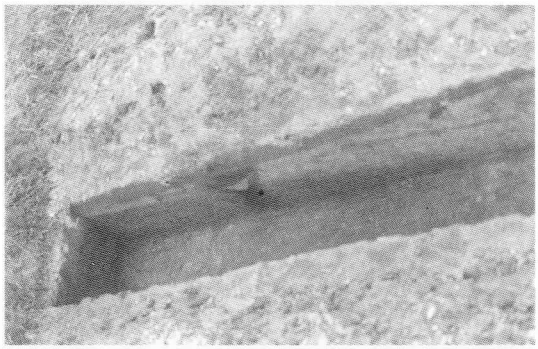


トレンチ①

トレンチ②

トレンチ②

トレンチ④



トレンチ⑤

トレンチ⑤

トレンチ⑥

図版16　小牧遺跡土層検出状況

トレンチ⑦

トレンチ⑥

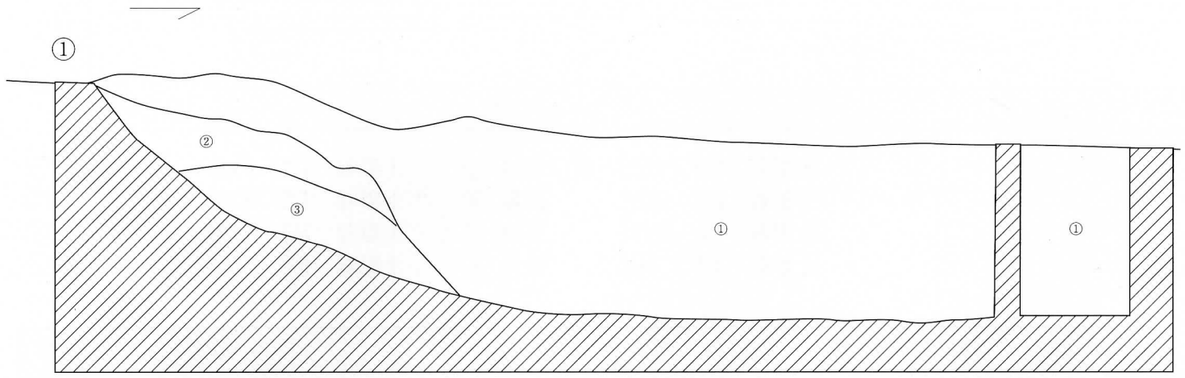
トレンチ⑨

トレンチ⑦

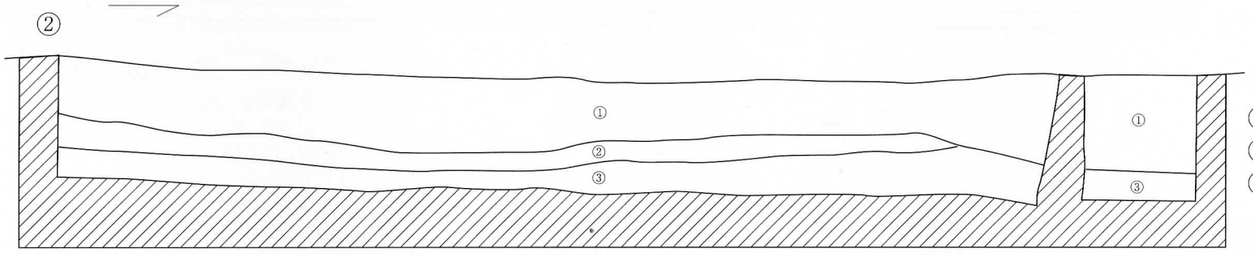
トレンチ⑨

トレンチ⑧

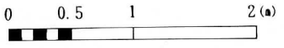
図版17　小牧遺跡土層検出状況



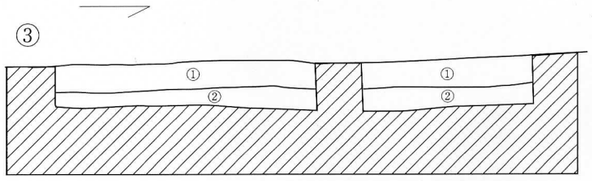
① 褐灰　10YR　4/1　砂壌土
② にぶい黄褐　10YR　4/3　砂壌土
③ 明黄褐　10YR　7/8　砂壌土



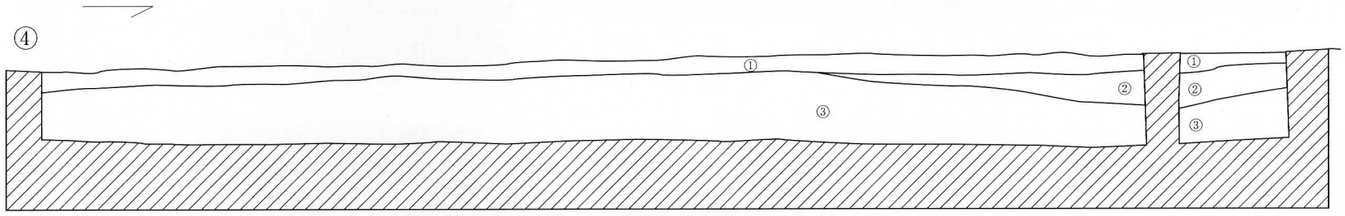
① 暗灰黄　2.5Y　4/2　砂壌土
② 黒褐　10YR　3/2　砂壌土
③ 浅黄　2.5Y　8/4　砂壌土



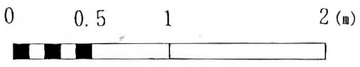
図版18　小牧遺跡土層断面図



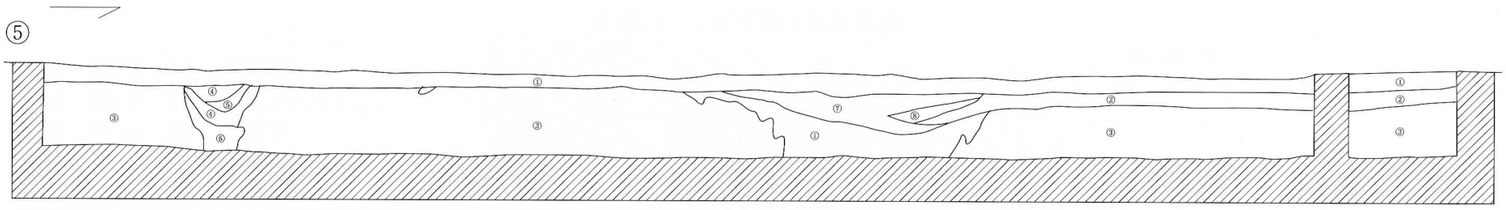
① 灰黄褐　10YR　4/2　砂壌土
② 黄褐　　10YR　5/6　砂壌土



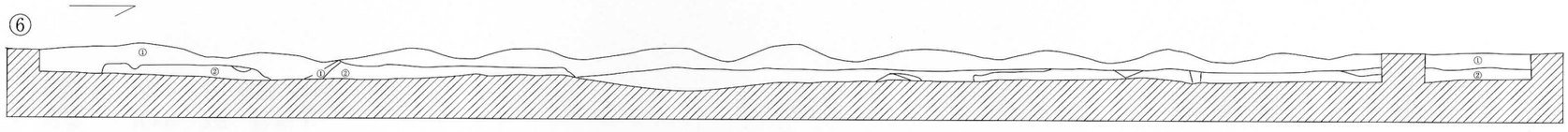
① 黒褐　　10YR　3/1　砂壌土
② 黒　　10YR　2/1　砂壌土
③ にぶい黄褐　10YR　5/4　砂壌土



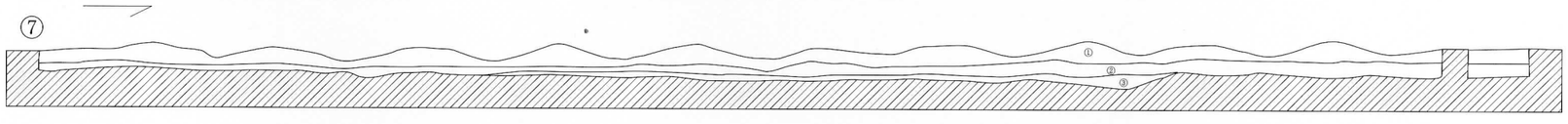
図版19　小牧遺跡土層断面図



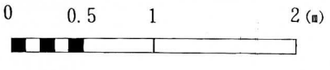
① 黒褐　　10YR　3/1　砂壌土
② 黒　　10YR　2/1　砂壌土
③ にぶい黄橙　10YR　6/4　砂壌土
④ 暗灰黄　　2.5Y　6/4　砂壌土
⑤ にぶい黄　2.5Y　6/4　砂壌土
⑥ 黄褐　　2.5Y　5/4　砂壌土
⑦ 褐灰　　10YR　4/1　砂壌土
⑧ 灰黄　　2.5Y　4/1　砂壌土



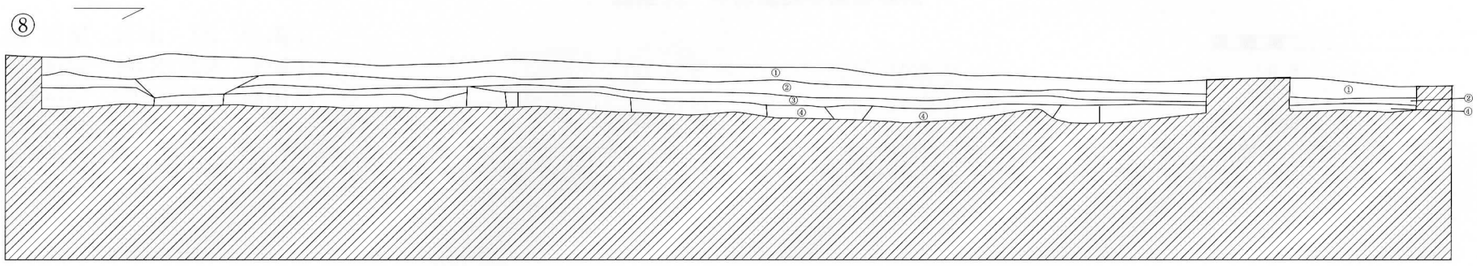
① 黒褐　10YR　3/2　砂壌土
② 黄褐　2.5Y　5/4　砂壌土



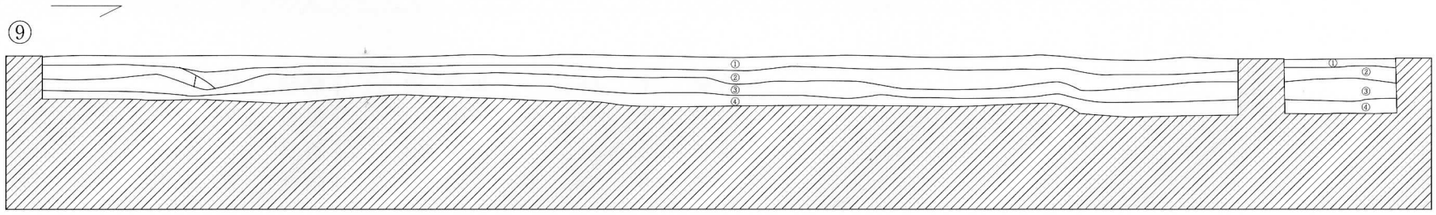
① 黄灰　2.5Y　4/1　砂壌土
② 黄橙　10YR　7/8　砂壌土
③ 黒褐　10YR　2/2　砂壌土



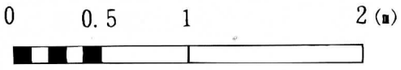
図版20　小牧遺跡土層断面図



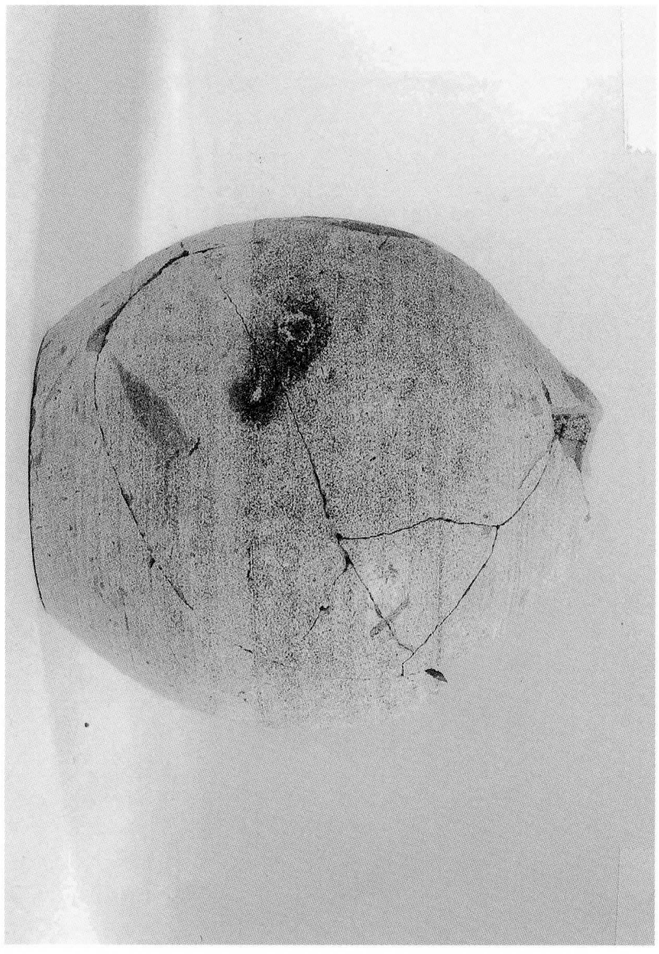
① 灰　　5Y　4/1　砂壌土
② 黄灰　　2.5Y　4/1　粘質土
③ 明黄褐　10YR　6/6　粘質土
　褐灰　　10YR　5/1(遺構／柱穴・溝)
④ 黄橙　　10YR　7/8　粘質土
　褐灰　　10YR　4/1(遺構／柱穴・溝)



① 黄灰　2.5Y　5/1　砂壌土
② 褐灰　10YR　5/1　粘質土
③ 黄橙　10YR　7/8　粘質土
④ 褐灰　10YR　5/1　粘質土

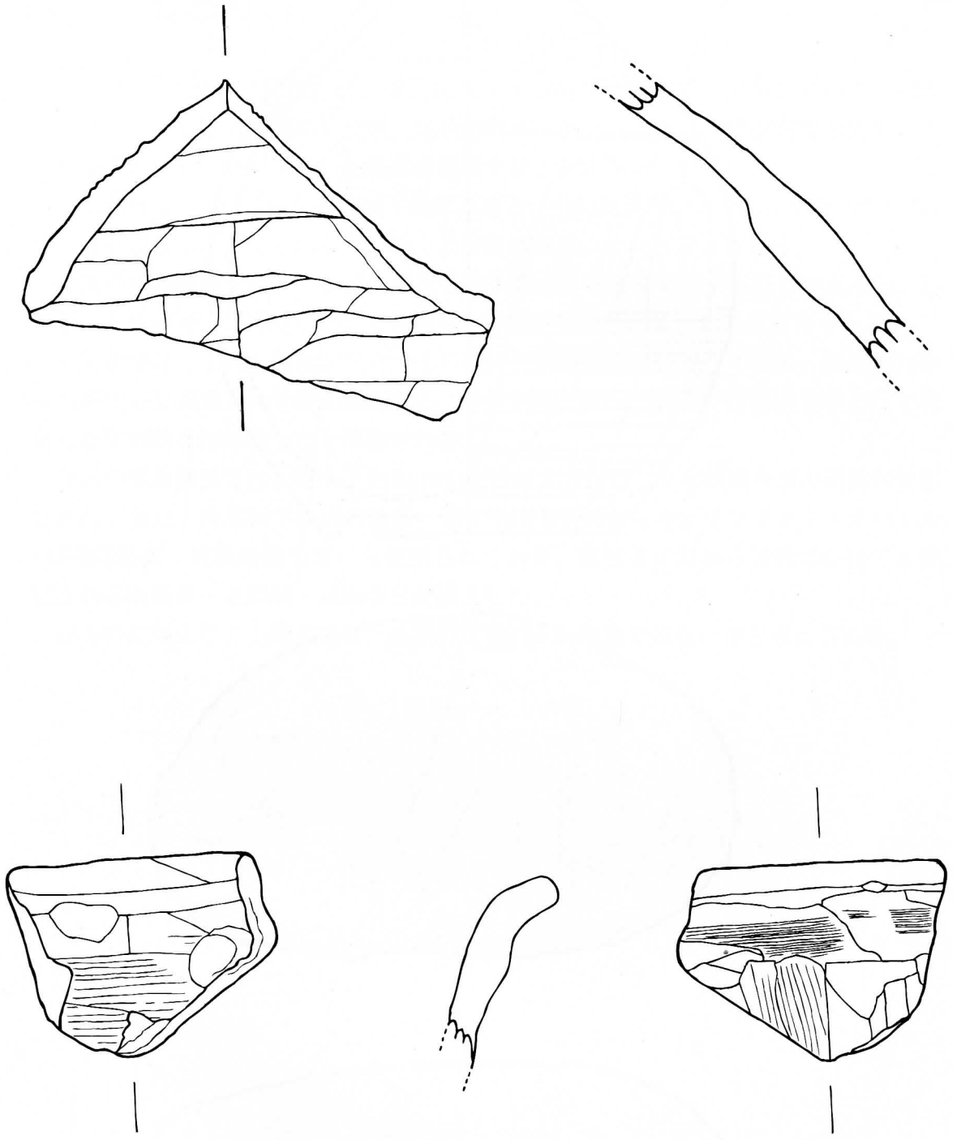


図版21　小牧遺跡土層断面図

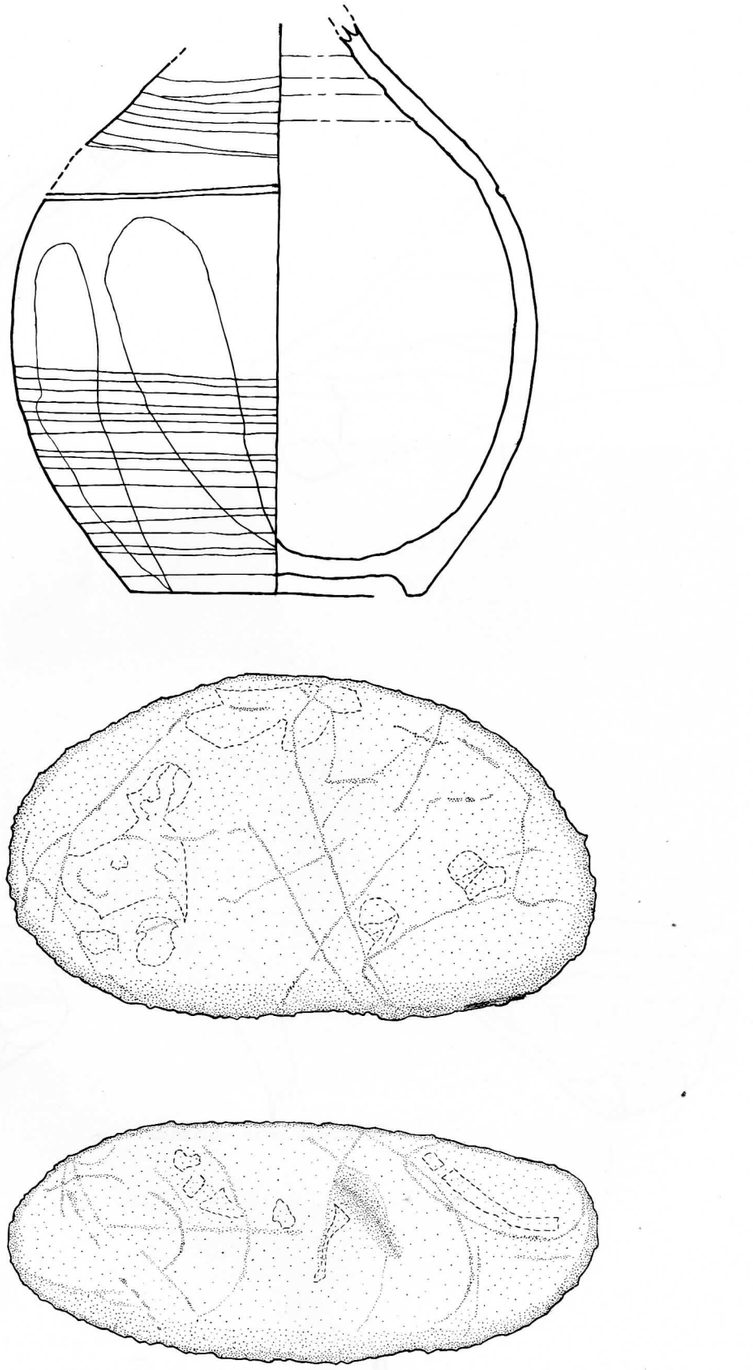


図版22　小牧遺跡遺物

図版23　小牧遺跡遺物



図版24　小牧遺跡遺物実測図



図版25　小牧遺跡遺物実測図

第4章　おわりに

○　巨田2期地区遺跡（仮称）は、仲間原台地と上田島丘陵の境に位置している。現況は山林で、調査地は谷間に1・2区、尾根の側面に3・4区がある。確認調査の結果、当調査地において人が営んでいた痕跡を確認することは出来なかつた。

○　茶屋遺跡は、江戸期の佐土原城下図によると、当時御茶屋があつたと記されている。小字名も茶屋ということから、このことはほぼ間違いないと考えられる。

今回の確認調査では、一番古い年代で弥生期の生活跡を確認することが出来た。しかし、上位の層では攪乱がひどく茶屋跡を確認するのは困難であると考えられる。

○　小牧遺跡は、小牧台団地が立地する丘陵の南側縁辺部に位置している。調査地対岸の石崎川跡に囲まれた約6haの低地は、字名を囲（かこい）と言い、かつては河川を堀として利用した防御的な館があつたと推測される。

今回の確認調査では、表土下約20cmの包含層より柱穴・Ｖ字状溝などの遺構が検出された。また、自然科学分析の結果、稲作水田遺構の存在を示すプラント・オパール（植物珪酸体：植物細胞化石）も検出されており、遺物も中世から近世にかけてと推定される陶磁器・土師器・石器などが出土した。

以上の結果より、当調査地は、集落周辺部の水田地帯ではないかと考えられる。

報告書抄録

ふりがな	さどわらちょうないいせき4
書　　名	佐土原町内遺跡Ⅳ
シリーズ名	佐土原町文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編集発行	佐土原町教育委員会
所　在　地	〒880-0297　宮崎県宮崎郡佐土原町大字下田島20660番地
発行年月日	2001年（平成13年）3月31日

ふりがな 所収遺跡名	こた2きちくいせき 巨田2期地区遺跡(仮称)	ちゃやいせき 茶屋遺跡	こまきいせき 小牧遺跡
ふりがな 所　在　地	さどわらちょうおおあざ 佐土原町大字 かみたじまあざながお 上田島字永尾	さどわらちょうおおあざ 佐土原町大字 かみたじまあざちゃや 上田島字茶屋	さどわらちょうおおあざ 佐土原町大字 しもなかあざこまき 下那珂字小牧
遺跡番号	2005	3005	1031
調査面積	約4,700㎡	225㎡	約2,400㎡
調査期間	平成11年12月15日～ 平成12年1月28日	平成12年2月2日～ 2月29日	平成12年11月16日～ 12月18日
調査原因	巨田2期地区農免農道整備	無線基地局建設	町道上町～平小牧線整備

佐土原町文化財調査報告書
第21集
佐土原町内遺跡Ⅳ

平成13年3月

発　　行　宮崎県宮崎郡佐土原町教育委員会
印　　刷　(有)宮崎新生社印刷